

特集 伝統と技術の祭典
消防出初式

新春カメラニュース

取材特集 市立船橋全国大会で活躍

まちなかの文化財 栗原郷成瀬家

広報ふなばし写真版
JANUARY 1月
vol. 11
隔月年6回発行



伝統と技術の祭典 消防出初式



「安全で住みよい地域づくりをめざして」一斉放水、50万都市船橋市消防局は国際的な活躍も期待されている



江戸の火消しのおもかげをのこす若鷹会による梯子乗り(市指定無形文化財)



功労者や永年勤続者の表彰も行われた 表彰状を授与する大橋和夫市長(左)



多彩な演奏で式を演出する船橋市消防局音楽隊



総指揮を勤める酒井消防副団長



永年勤続の職員・団員の内助の功をたたえる 婦人への表彰も行われました



自衛消防隊による屋内消火栓操作法訓練



船橋市の消防が誇る 最新型の車両もズラリと勢ぞろい



市内の企業などでそれぞれ組織されている自衛消防隊の入場行進



早さと確実さを競う消防団ポンプ操法訓練



カラガードを勤めた 婦人消防官



迫力ある演技にチビッコ達も大喜び



特色ある華やかな出初式を演出する消防職員

新春恒例の船橋市消防出初式が、快晴に恵まれた1月8日、船橋オートレース場駐車場で多数の関係者、市民を集め盛大に開催されました。

今回のテーマは「安全で住みよい地域づくりをめざして」というもので、新春を迎え、心を新たに消防機関・企業・市民が力を合わせて、より良い街づくりをしてゆくことを目標としています。

出初式はいつごろから行われるようになったのでしょうか。火事とけんかは江戸の華」と人々に言われた江戸時代。明暦元年から三年にかけて、世にいう「江戸の三大火事」と呼ばれる大火が江戸にひんばんに起こりました。幕府は事の重大性に、これに対処すべく「常設消防組」と呼ばれる組織を、幕府直属の旗本を以って作り出しました。初めは4人の旗本の4組で、一組当り手力5人、同心30人、火消人足100人程の組織であったそうです。そして万治元年(1659年)正月4日、江戸は上野の東照宮前でこの新設の火消勢4組約600人が4代將軍家綱をはじめ、幕府閣僚の居並ぶ前でデモンストレーションを行いました。

これが定火消の出初式の儀式となり、やがて享保4年(1719年)町火消ができてからもこの行事が行われるようになり、正月4日の出初(出初式)が定着していったということです。そして、伝統を誇ったこの出初式は、明治維新とともに一時廃止されましたが、明治8年(1875年)警視庁の川路大警視が「消防出初式は、消防統一の起源にして、人心を収攬し、消防職員をして其の職務に努めしむるの主旨に出づ」として再び出初式を復活させ、その日を江戸時代と同じ1月4日と定めたとのことです。この復活した出初式は、明治27年(1894年)に施行された「消防組規則」によって、全国各地の私設の町別消防組に拡がって行きました。船橋周辺での出初式もこの頃から各地で盛んに行われるようになったようです。



市民文化ホール前に集まった新成人の皆さん



岸田智史のコンサートも行われた



“華やかにハタチ” 成人おめでとう

成人の日の15日、船橋市民文化ホールで成人を祝う記念式典が3回に分けて行われました。この日は、ポカポカ陽気の穏やかな日和に恵まれたせいか、また、一生に一度の成人式とあって、晴れ着姿の女性が目立ち、例年になく華やいだ成人式でした。

今年成人式を迎えた新成人は、全国で約180万人、千葉県内では73,895人、そして船橋市内では8,479人が責任ある社会人として、新たな人生の第一歩を踏み出しました。



新成人の二人が“スイッチON”



夜空に浮かびあがるように見える灯明台



新成人を祝う「灯明台祭」

成人の日を前にした14日夜、船橋大神宮（意富比神社）境内で、灯明台（県指定文化財）に火を入れる「灯明台祭」が行われました。これは6年前の灯明台100年祭がきっかけとなって、年に1度だけ点灯されるようになったもので、新成人の新しい門出を祝福し、成人した男女が人生の進路を誤らないようにとの祈りがこめられています。

点灯祭では、新成人を代表して滝口一馬さん（大学生・市内本町）と野岸裕子さん（大学生・市内芝山）の2人が点灯のスイッチを押すと暗やみに明かりがともり、夜空に灯明台が浮かび上がると、詰めかけた市民から歓声があがりました。



約2,000人のランナーが部門別に次々とスタート

2,000人が参加—元旦マラソン

新春恒例の「元旦マラソン」がららぽーと周辺の京葉レディーズ健康マラソンコースで開催されました。今年の元旦はあいにくの曇り空でしたが、それでも会場には早朝から元気なマラソンファンが約2,000人もかけつけました。レースは全長10キロメートルのコースを、中学生から一般の部までの14部門に分かれて行われましたが、それぞれ選手は素晴らしい力走を見せ、心地よい汗を光らせていました。



新春の風をほおにうけゴールイン



寒さも吹き飛ばす元気な女子中学生達

新春カメラニュース



中学の部で優勝した習志野台中の選手達



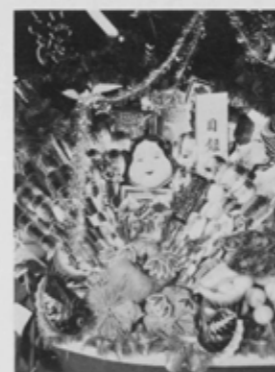
スターターを勤めた大橋和夫市長



運動公園陸上競技場を一周していよいよ市内に向かう

97チーム734人が参加した市民駅伝

成人を祝う第30回「成人の日」記念市民駅伝競走大会が、新装なった運動公園陸上競技場で、1月15日午前8時57分、大橋和夫市長のピストルの合図でいっせいにスタート。この市民駅伝には、中学校の部（7区間）に39チーム、高校の部（5区間）に18チーム、一般の部（5区間）に40チーム、計97チーム、734人の市民が参加し、23.6キロメートルのコースを走り、タイムを競いました。熱戦の結果、中学校の部では習志野台中A、高校の部では市立船橋A、一般の部では御滝中OBAがそれぞれ優勝しました。



豪華な宝飾もせりにかかった



活気あふれる果物のせりがはじまった

中央卸売市場で初荷のせり

1月5日（日）の早朝、船橋市民50万人の台所を預かる中央卸売市場で、昭和61年新春を飾る初荷のせりの声が場内に響き渡りました。まず午前6時から鮮魚のせり、つづいて午前7時から野菜・果物のせり、そしてこの初荷のときだけせりにかかる正月用松竹梅の鉢ものや春の七草のかごなどが威勢のいいせり人によって、つぎつぎと売りさばかれてゆきました。この日のせりで魚貝類200トン、果物190トン、野菜78トンが売買されました。



威勢よいせり人の声が場内に響く

市立船橋全国大会で活躍

高校駅伝4位・サッカーベスト16



午後零時30分 号砲とともに西京極陸上競技場を一斉にスタート



花の1区で見事区間賞を獲得した仲村明主将



いよいよゴールを目指してスタートする7区の大胡満慎選手



報道記者の取材を受ける小出善雄監督



大橋和夫市長にレースの報告をする小出善雄監督(左)と仲村主将



前夜宿舎でリラックスする選手達

師走の都大路で大健闘

第36回全国高校駅伝大会は、昨年12月22日、京都市西京極陸上競技場を中心に、全国47都道府県の代表を集め開催されました。千葉県代表として出場した、市立船橋高校は、初出場校とは思えぬ大健闘で堂々4位入賞を果たしました。師走の都大路を舞台とするこの駅伝は7区間42.195キロメートルの長丁場。市船勢は高校長距離界No.1を誇る仲村明選手(御滝中出身)が期待通りの強さを見せて、花の1区(10キロメートル)で強豪を制し、見事区間賞を獲得、続く2区の稲林精治選手、3区の大島祐之選手、4区の中瀬洋一選手、5区の石田弘一選手、6区の安達俊選手、そしてアンカーの大胡満慎選手ら(全員が120%の力を出した)小出監督談)の大健闘で、大いに盛り上がりました。なお、初出場で入賞(6位以内)は過去に例がなく、今後の活躍が楽しみです。



市立船橋は2回戦で強豪高松商業と対戦、熱戦の末劇的な逆転勝利を取めた



雨中での第3回戦は青森代表の五戸高校と



寒風の中、ホットな声援を送る市立船橋の生徒達

サッカーも大健闘ベスト16

全国48チームが参加した、第64回全国高校サッカー選手権大会は、千葉県代表の市立船橋高校岡弘太郎君(3年)の力強い選手宣誓でその戦いの火ぶたが切っておとされました。例年国立競技場を中心に開催され話題の多いこの大会、市立船橋は千葉市天台競技場で高松商業と2回戦を行い、見事2対1と逆転勝利をおさめました。そして翌日、氷雨の中ベスト8入りをかけて、青森代表の強豪五戸高校と熱戦を展開、5対1と惜しくも敗退しベスト16となりました。



布啓一郎監督(左端)と選手達



船橋をよりのロケ風景

テレビ広報船橋たより

市では市政や市内の行事、話題などを取材して紹介する番組「船橋たより」を、毎月一回UHF千葉テレビで放送しています。
こんどの放送予定は2月16日(日)午前11時30分〜45分。わらで作った大きなへびを村の出入口(辻のはずれ)に飾って悪魔や厄病神が村に入ってくるのを防ぐ伝統行事「辻切り」を紹介します。ぜひご覧下さい。



犬山城主・成瀬正寿侯の墓は、県内随一の大きさ、だとい

新しい文化財

⑦ 栗原郷成瀬家(宝成禅寺)

〔所在地〕船橋市西船6


京成葛飾駅近く、宝成禅寺がある。初代犬山城主であり、初代塚奉行であり、と、家康側近の「大物」の大名、成瀬隼人正(なるせ・はやとのしょう)正成(まさなり)から出て、その子之成、孫之虎と三代続いた「栗原郷成瀬家」の菩提所である。
昔は大変なお寺さんだったと思う。多くの墓所のうち、成瀬正寿(まさなが)という犬山七代目の殿様のお墓の大きさだけでも、当寺の格式の高さがわかるという。神石のその高さ三・六メートル、幅九〇センチ、厚さ四〇センチは県下最大だとい。
栗原二代目之成(ゆきなり)が歿したとき、殉死者が三人あったが、それら主従が今なお、なかよく地下に眠っているというの珍しい。普通、殉死者を大名と同じ場所には埋葬しなかった。
年改まり好天候の某日、田古作道を歩いてみる。昔からの民家に加え社員住宅、マンションがたくさん建った。車がすいすい通り抜け、その分、女性が増えたと綺麗になったかな、なんて思う。



静かな町中に宝成禅寺はある



いよいよこの3月3日、国鉄京葉線(千葉みなと駅～西船橋駅間)が暫定開業します。総武線の混雑緩和と臨海部の人達の新しい足としてその活躍が大いに期待されます。写真は試運転を行う京葉線。



スポーツで健康ふなばし こんにちは…

編集後記

新春第1回のPHOTOふなばしをお届けいたします。出初式、駅伝、成人式、元旦マラソン、初荷、灯明台点灯式…船橋の新春行事は実に多彩です。今号はこうした船橋の新春行事を中心にとりあげて編集を行いました。今年もまた1年、カメラを肩に市内をとりまわってまいります。皆さんの貴重なご意見をいただきながら、さらにユニークな広報活動を行っていきたくと考えておりますので、よろしくお願いたします。

このPHOTOふなばしは町会・自治会の皆さんのご協力によって各家に配布されておりますが、最寄りの公民館、出張所、図書館などにも用意してあります。